道徳科学習指導案

指導者　　木村　純也

1　日　　時　　令和５年 11 月 18 日（土）　第２校時（10：05～10：50）
2　学年・組　　複式高学年　計 16 名（６年男子４名，６年女子４名，５年男子４名，５年女子４名）
3　場　　所　　複式高学年教室
4　単 元 名　　絆を深めるとは
5　単元・教材について

本学級の児童は低学年期（４年前）と中学年期（２年前）に今年度と同じメンバーで学級生活を送ってきた。学習内容では学年差があるが，休憩時間や給食など生活場面では学年による隔たりはなく，16 人が一つの学級として生活を送っている。児童はこれまでよりも仲を深めることを願っており，４月当初に決めた学級目標「絆」にその思いが込められている。今年度は新型コロナウイルスの５類移行を受け，学級生活においても児童同士の関わりをより積極的に取り入れることができている。班活動として，朝の会や帰りの会での班会議，提出物や発表回数の相互確認，月間班対抗ミニレクなどに取り組み，学年間・男女間での交流の場を持つことができている。これらは教師の働きかけによって行われているものであるが，九月の末頃から児童主体の全員遊びが開かれるようになってきた。自由参加であるが，多くの児童が一緒に遊んでいる。このような姿から，児童同士の親密度の高まりを感じることができる。その反面，児童の意識では「絆＝仲が良い」程度の捉えであることは否めず，本来「絆」が意味する「切ろうにも切れない程の強い心理的なつながり」にまでは考えが及んでいないのが実態である。

今回の実践では，「絆」の意味を捉え直しを図り，複数の教材を近接した時期に扱う道徳科の授業と学級活動での話し合いの時間との関連を図ることで，学級目標の実現に向かう一人一人の心構えを醸成し，具体的な取り組みを考えることをねらう。本実践で扱う教材とその選択や配置の意図は末尾に掲載する。

本時で扱う『誰もが幸せになれる社会を』には，かつて日本の隔離政策により不当に差別を受けていたハンセン病患者のきみ江さんの話が取り上げられている。先天的な病気と誤った知識のために強制的に隔絶された生活を送らざるを得なかった人々がいるという事実は，児童にとっては衝撃を持って受けとめられる事であろう。しかしハンセン病やそれに関連する歴史的事実の知識が無くとも，自分の意思とは関係なく隔離生活を強いられることに対する不当さを感じることができる。近年ではコロナウイルス感染による隔離生活を想起し，その不自由さに思いを馳せるかもしれない。一方で，世論の風潮や周囲の意見により，根拠のない偏見を抱いたという経験を持つ児童もいるであろう。この教材を通して，差別や偏見の不当性だけで無く，集団心理のもと，知らず知らずのうちに自分も差別的で偏った見方をする人間的な弱さを持っている可能性があることについても気づくことができる。

指導にあたっては，ハンセン病に関する正しい知識を伝えるとともに，隔離されていた人々の生活や気持ちを考える活動を通して，差別の不条理さを許さないという姿勢をもつことができるようにしたい。それと同時に，社会正義を実現するためには偏ったものの見方にならないためにはどのように努めることが必要なのか，どのような意識が大切なのかについて話し合うことで，よりよい社会の実現をしようとする道徳的な態度を育みたい。

6　単元の目標

友情や信頼，公正・公平な態度について考えを交流することで，集団を構成する一人として学級目標を実現のために心がけたいことや取り組みたいことを整理し，自分なりの考えをもつことができる。

7　指導計画（朝の会＋全４時間）

計画	学習内容	位置づけ
朝の会	「絆」の本来の意味を知り，自分たちの生活の様子をふり返る	学級活動
第１時	『コスモスの花』　【B-10 友情，信頼】	道徳科
第２時	『どうすればいいのだろう』　【C-13 公正，公平，社会正義】	道徳科
第３時	『だれもが幸せになれる社会を』【C-13 公正，公平，社会正義】	道徳科（**本時 3/4**）
第４時	絆を深めるとは　～そのためにできることは何か～	学級活動 / 総合

8　本時の目標

ハンセン病をめぐる差別や偏見の歴史的事実やそれにより不当に不利益を被っていた人の姿を知り，誰もが幸せになれる社会像やそれを築くために必要なことを話し合い，社会正義の実現の大切さやその難しさについて考え，授業中に感じたことをワークシートに書くことができる。

9　「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

類型※	具体的な児童・生徒の姿
Ｉ型（わかる）	差別や偏見は許されないということを理解している。
Ｃ型（つなぐ）	自分の生活をふり返り，周囲に流されず公正・公平な態度で行動することのよさや難しさについて考えている。
Ｅ型（生かす）	差別や偏見をせず，日々の生活で公正・公平な態度に努めようとする意欲をもつ。

手立て【関連する教師の資質能力】

○　冒頭で“幸せ”について考えることで，後の活動でそれが奪われるつらさを想像し，公正・公平な態度や社会正義の大切さについて考えを深めることができるようにする。【授業構想力】

○　学習の展開を伝えた上で教材文に触れることで，自分の意見をもって話し合いに参加できるようにする。【授業実践力】

○　集団心理による判断の揺らぎを考えることで，差別や偏見を許さない気持ちと実際的場面で公正・公平な態度を貫くことの難しさを包括的に捉え，自分の内面を見つめることができるようにする。【授業実践力】

※　類型は「Ideas ＝基礎知識（考え），Connections ＝つながり，Extensions ＝応用」の頭文字をとっている。到達度という発想ではなく，児童の学びの姿を分類する視点である。そのため，複数の類型の要素を持つ児童がいることもあり得る。

10　学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
だれもが幸せになれる社会とはどのようなものか考えよう。	
１．本時の学習のめあてを知り，自分なりの“幸せ”について簡単に交流する。 ・家族や友達と過ごせる。	○　前時までの学習内容を端的に振り返り，本時のめあてと学習テーマの関連を捉えやすくする。

・食べ物がある。 ・欲しいものが買える。 ・勉強できる。	○　一人一人が考える“幸せ”について交流する場を設けることで，それらが奪われた生活のつらさについて考えやすくする。
2．ハンセン病で強制的に隔離生活を強いられた人々が日本にいたことを知る。	○　p.96 の問いかけを示し，ハンセン病患者に寄り添って教材文を読むことができるようにする。ハンセン病とかつての日本の隔離政策については説明し，正しい知識を持って読むことができるようにする。
3．教材文の範読を聞きながら読む。	○　読んだ後の学習活動を示しておくことで，学習に対する心構えを作って読むことができるようにする。 ○　一読で大まかな内容を捉えることができるように，抑揚や間に気をつけながら範読する。児童の理解度を見ながら，難解な語句については適宜説明をする。
4．読んだ感想を交流する。 ［患者に寄り添って］ ・家族にも会えず，かわいそう。 ・したいこともできなくなってつらい。 ・無理やり閉じ込められるのはひどい。 ［患者の家族に寄り添って］ ・急に会えなくなって悲しい。 ・家族のことが心配。 ・政府に不信感を抱く。 ［日本政府に寄り添って］ ・国民を守るためには必要なことかも知れない。 ・わからないことが多かったから，仕方ない。 ［国民に寄り添って］ ・政府に感謝している人もいるかも知れない。 ・知り合いが隔離されたら，不安になる。	○　机を円形に並び替えることで，互いの意見を自由に交流しやすくする。 ○　話し合いの進行は児童に委ねることで，教師は児童の意見の類似性や関連性を図式化しながら黒板に残していく。 （分類の主な視点は左欄参照）
5．教師からの問いかけについて，さらに話し合いを深める。 【問いかけ①】に対して ・政府が言っているなら信じると思う。 ・感謝するかもしれない。 ・たとえ変だと感じて自分一人が言っても，周りは変わらないから従うと思う。	○　公正・公平な態度を貫くことの難しさや，多勢に流される人間的な心の弱さについて考えることができるように，児童の話し合いの最中（もしくは一段落ついた頃合い）に，次のような視点を示す。 【問いかけ①】 「政府の方針に背くことはできるのか。」

【問いかけ②】に対して ・長い間言われてきたことだから，急に変われない。 ・感染がこわいから正しい知識も疑って，自分の都合がよい方を信じてしまったかも知れない。 6．めあてに対する考えを交流し，本時の学習のふり返りを書く。	【問いかけ②】 「国民は“隔離政策”を容易に受け入れたにも関わらず，“正しい知識”が広がりにくかったのはなぜか。」 ○　差別や偏見が無くなりにくい状況があることを理解した上で，改めてめあてについて考えることで，人間的な心の弱さを抱えながらも公正・公平な態度に努めることの意味や価値について，自分なりの考えをもつことができるようにする。 ◆　公正・公平な態度や社会正義の実現という視点を考えるきっかけとして，本時の授業の中で考えたことや感じたことを自分の言葉でワークシートに書くことができる。

11　教材の選択，配置の意図

（1）扱った教材

身近な存在である友達に対する考え方や，社会集団の中での望ましい行動について考えることができるように，以下の３つの教材を選択した。

『コスモスの花』（６年生教材）

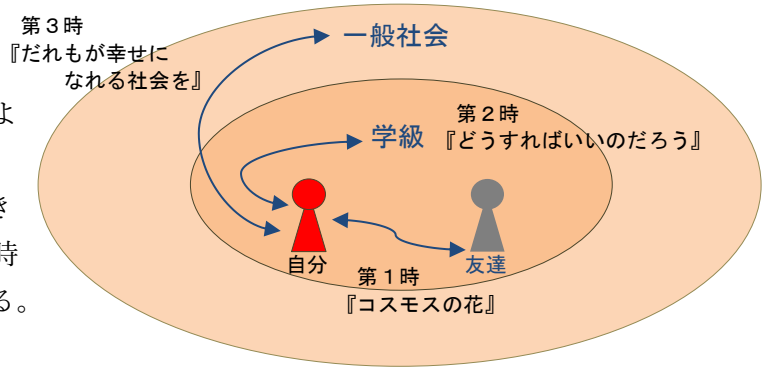
目立つことの少ない自分の友達が注目を浴びることに不快感を覚えるが，いざその友達を悪く言う声が聞こえると思わずかばってしまう主人公が描かれている。この主人公の揺れ動く心情を考えることで，友達の存在や真の友情について考えを深めることができる。

『どうすればいいのだろう』（５年生教材）

自分とは直接関係がないものの，公平性や公正さに欠けるクラスメイトの行動に違和感を覚える主人公が描かれている。よりよい人間関係を築くために望ましい行動について言及しようか迷う登場人物の心情を考えることは，公正・公平に対する考え方を整理するだけでなく，正しいと思ったことでも行動に移せないという人間の心の弱さについても理解を深めることができる。

『だれもが幸せになれる社会を』（5 年生教材：**本時**）

ハンセン病に関わる当時の日本の差別的な隔離政策や人々の偏見が取り上げられている。歴史的事実から差別や偏見に対する自身の考え方を見つめ直し，よりよい社会の実現のための道徳的態度の伸長を図ることができる。

（2）配置の意図

自分との関わりの範囲が次第に広がるように教材を学習計画内に配置することで，児童の視点を自然に拡張することができるようにしている。こうすることで，各時間の学習に緩やかな系統性を意識している。